

## 『明日のために今！』

かんだ けんいち  
神田 健一

新日本製鐵大分労働組合・組合長

本年9月、基幹労連本部役員を退任し、ふるさと大分に帰任。早、3カ月が過ぎようとしている。

東京在住は、2000年～2004年に新日鐵労連本部、2006年～2010年に基幹労連本部と都合8年の単身赴任となったが、良き先輩、同僚に恵まれ、記憶に残る仕事ができたと感謝している。

これまで私が学んできたリーダー達は、歴史に学び、足下の課題に真正面から取り組み、常にあるべき姿・これからの運動のあり方を自問自答しつつ、そのための組織と個々の役割はどうあるべきなのかを語り、われわれに問い、そして行動に移してきた。

今、その立場におかれ、いくつかの課題に直面している。時代の趨勢とも言える地球温暖化対策もその一つであり、対応のありよう如何では、国富の流出、産業の衰退など、私たちの雇用と生活まで奪いかねない。また、新興国の経済発展による新たなステージでの大競争は、鉄鋼産業・企業の生き残りをかけた課題でもある。他方、職場では、大幅な世代交代を迎え積極的な採用により、新卒のみならず、中途採用の拡がり、女性の操業・整備職場への配属など、60歳以降のシニア雇用も含め、幅広い層が働いており、ニーズの拡がり、かつての比ではない。

こうした環境変化に対処していくためには、人づくりを通じた組織強化が欠かせない。当たり前の話ではあるが、この実践は難しい。

バブル崩壊後の経済を「失われた10年」と呼んでいるが、労働運動においても同様の事象がある。当時、厳しい組織・財政事情から、各種

行事、教育・研修活動の凍結・見直しなどが多くの組合で実行に移された。当時の状況からは致し方ないことでもあったが、人材育成、組合員とその家族との接点という観点からは、反省すべき点も多い。

組合活動は、タテ・ヨコの活動であり、ネット(網)のメッシュをより細かくしてこそ、職場・組合員の思いに手が届く。地道な活動ではあるが、職場世話役活動をはじめとする職場対応、研修・教育活動の継続が次代を担う人を造り、そのことを現実のものとしていく。

私たちは常に、時代の変化をキャッチし、次なる活動にチャレンジしていく努力と勇気を持ち続ける必要があり、それができなければ、まさに浮世離れしたオジサン達(女性役員は除く)の集団になりさがるってしまう。

足下の地球環境問題ばかり、政治の舵取りばかり、そして職場原点の運動を大切に、『明日のために今！』成すべきことを追求していかなければならない。

かつて、大分県出身の先輩曰く「緊張感のない所には、知恵も勇気もわいてこない。労働運動は理想を追い求めるものである。常に夢とロマンを持ち続けなければならないが、一方で現実をしっかりと見据えることも忘れてはならない。一見矛盾しているようであるが、この両方のバランスがなければ組合員も国民も同意は得られない。」と。

肝に銘じつつ、組合員と共に、『明日のために今！』を考え、行動していきたい。